

出雲地区

# 保護司会

だより

第38号

目次

巻頭言（島根県出雲保健所所長）1

社会を明るくする運動（標語）2

社会を明るくする運動（作文）4

社明運動啓発講演会……………6

更生保護女性会の活動……………7

協力事業主会 研修会……………8

BBS会員募集……………8

更生保護功労受彰者……………8

保護司会の皆さまには薬物乱用防止の取り組みをはじめ各種の地域活動にご協力いただき感謝を申し上げます。

令和二年に国内で感染が確認されてから全国の保健所では新型コロナウイルス感染症対策を行ってきました。特に出雲圏域では、令和三年十二月末のオミクロン株のクラスター発生、本年六月中旬からは全国のB.A.5株大流行の先駆けとなりました。

感染対策で大事なものは、感染源対策、感染経路対策、そして、感受性への対策の三本柱です。そのどこかを断ち切れれば感染の流行は抑えられます。感染源対策では、早期に患者を見つけ自宅や病院で療養していただくこと。感染経路対策では、マスクを適切に利用して人との距離をとること、部屋の換

気。そして、感受性では、日頃の体力に加え、ワクチン接種を受けること。

これらの対策をより進めるのが関係性です。大切な人(例えば重症化リスクのある方)が感染しないようにと家族や地域の中で互いに配慮する場面がたくさん見受けられました。健康格差の縮小を目標にした健康日本21(第二次)計画では、ソーシャルキャピタル(社会関係資本)という言葉で、地域の関係性を謳っています。この出雲の地で培われた関係性(互いを信頼すること、助け合うこと)が、コロナ禍で発揮されたと考えています。

出雲保健所では、これからもいきいきと暮らすことができる地域づくりに取り組んでいきますので、今後ともご支援のほど、よろしく願いいたします。

保護司会の皆さまには薬物乱用防止の取り組みをはじめ各種の地域活動にご協力いただき感謝を申し上げます。

令和二年に国内で感染が確認されてから全国の保健所では新型コロナウイルス感染症対策を行ってきました。特に出雲圏域では、令和三年十二月末のオミクロン株のクラスター発生、本年六月中旬からは全国のB.A.5株大流行の先駆けとなりました。

これらの対策をより進めるのが関係性です。大切な人(例えば重症化リスクのある方)が感染しないようにと家族や地域の中で互いに配慮する場面がたくさん見受けられました。健康格差の縮小を目標にした健康日本21(第二次)計画では、ソーシャルキャピタル(社会関係資本)という言葉で、地域の関係性を謳っています。この出雲の地で培われた関係性(互いを信頼すること、助け合うこと)が、コロナ禍で発揮されたと考えています。

## 感染症対策を高める地域の関係性



島根県出雲保健所所長  
**中本 稔**

保護司会の皆さまには薬物乱用防止の取り組みをはじめ各種の地域活動にご協力いただき感謝を申し上げます。

令和二年に国内で感染が確認されてから全国の保健所では新型コロナウイルス感染症対策を行ってきました。特に出雲圏域では、令和三年十二月末のオミクロン株のクラスター発生、本年六月中旬からは全国のB.A.5株大流行の先駆けとなりました。

感染対策で大事なものは、感染源対策、感染経路対策、そして、感受性への対策の三本柱です。そのどこかを断ち切れれば感染の流行は抑えられます。感染源対策では、早期に患者を見つけ自宅や病院で療養していただくこと。感染経路対策では、マスクを適切に利用して人との距離をとること、部屋の換



(勝島徹正保護司提供)

〈北山を望む〉

# 令和4年度 第72回“社会を明るくする運動”

## 標語及び作文の入賞作品

出雲地区保護司会では「犯罪のない明るい街づくり」「青少年の非行防止」をアピールする標語を、一般の部、小・中学生の部（出雲市青少年育成市民会議との共催）として募集しました。一般の部は171点、小学生の部は152点、中学生の部は356点の応募がありました。

また、第72回“社会を明るくする運動”島根県推進委員会が行った作文コンテストに協力し、小・中学校に参加を呼びかけたところ、小学生から103点、中学生から35点の応募がありました。

当保護司会で慎重に審査した結果、次のとおり入賞作品を決定しました。  
たくさんの応募をありがとうございました。

### 一般の部

#### 最優秀賞

立ち直る  
君の努力に 社会の支援  
芦渡町 石橋 厚

#### 優秀賞

優しさの  
溢れる地域 笑顔から  
渡橋町 中澤 悦子

どうしたの？  
そっと声かけ 寄り添って  
大社町 前島 一美

どうしたの？  
一人で悩まず 相談を  
匿名

色眼鏡  
取って見守る 立ち直り  
湖陵町 打田 薫

養おう  
人の話を 聞く力  
大津町 矢田 有里

#### 佳作

やらないよ  
ことわる勇氣 身を守る  
大社町 林 宏

気づいてね  
自分の心の SOS  
斐川町 三上 純子

ありのまま  
自分らしさを 出す勇氣  
高岡町 藤原 亜紀

もうちょっと  
聴いてみたいな あなたの話  
姫原町 落合 康子

「どうしたの？」  
笑顔につなげる 第二声  
斐川町 須田 良子

夢追って  
頑張る君は 輝いて  
湖陵町 春日 ノブ子

「やめなさいー」  
言える勇氣が すばらしい  
大社町 高市 靖子

声出そう  
まずは地域で 挨拶を  
大津町 有藤 晴幸

今聞くと  
親子の会話 大切に  
多伎町 園山 久美子

笑い声 絶えない社会  
あなたとつくる  
斐川町 高橋 孝治

小学生の部

最優秀賞

みとめあう  
とくいやにがて  
それがこせい  
大社小学校 五年 平等 翔光

優秀賞

やさしさを  
もらった分だけ  
おすそわけ  
大社小学校 四年 小田紗和子

ネットでも  
かるいきもちが  
はんざいに  
湖陵小学校 三年 飯塚 美月

佳作

言わないよ  
君が悲しむ その言葉  
長浜小学校 四年 河井 陽向

悪いこと  
悪いと言えて 親友だ  
西田小学校 六年 山根 愛翔

ありがとう  
みんなえがおに  
なることば  
中部小学校 一年 和田守結月

広がって  
「コロナじゃなくて  
思いやり  
今市小学校 五年 新宮 甘奈

うわさじゃなく  
自分の目で見て 確かめて  
今市小学校 六年 柳樂 優衣

あそぼうよ  
こっちおいでよ  
なかまだよ  
大社小学校 一年 川上 陽葵

わからない  
うわさはぜったい  
信じない  
今市小学校 四年 武田 実咲

「大丈夫？」  
その思いやり 忘れずに  
湖陵小学校 六年 桑原 柚葉

ありがとう  
ことばでつたえる  
わたしのこころ  
長浜小学校 一年 朝日 香菜

いつだって  
あいさつ、へんじ  
気もちよく!!  
中部小学校 二年 大田 滉織

中学生の部

最優秀賞

「やめようよ」  
その一言を 言う勇氣  
平田中学校 一年 多久和真心

優秀賞

SNS 一言書いたら  
消せないよ  
平田中学校 一年 中濱 央喬

一呼吸  
やっていい事考えて  
犯罪防止の第一歩  
平田中学校 一年 石原 悠翔

佳作

大丈夫  
まだ間に合うから  
引き返そう  
平田中学校 三年 金折 結衣

あたりまえ  
人それぞれに  
ちがうもの  
南中学校 二年 奥井 莉紗

小さなサインを見逃さず  
声かけあおう  
明るい社会  
平田中学校 一年 田中 和葉

地域の目  
犯罪行為 ゼロにする  
南中学校 二年 鳥屋尾愛果

書きこまない  
誹謗中傷 SNS  
南中学校 二年 小村 夕奈

深めよう  
人との絆と 思いやり  
平田中学校 一年 樋野 空舞

それぞれの  
素敵な個性を  
認め合おう  
平田中学校 一年 飯塚理佐子

笑い顔 見守る社会  
地域の輪  
平田中学校 二年 河原 涉

あいさつを  
交わす地域の  
あたたかさ  
平田中学校 二年 森山 真帆

ゴミ拾い 心も場所も  
気持ちよい  
平田中学校 三年 宮澤 颯



「社会を  
明るく  
する運動」

# 作文コンテスト優秀作品



小学生の部

## 大切なのは自分・相手のことを 理解すること

平田小学校 六年 長岡 佑弥

ぼくは、よく朝や夕方のニュース  
を見ます。その中で、一度犯罪を犯  
してしまった人がもう一度犯して  
しまったというニュースを見まし  
た。そのことが気になってインタ  
ネットで調べると、「再犯」という  
言葉が出てきました。ぼくは、この  
「再犯」はどのくらいの人が起こし  
ており、どのくらい起きているのか  
調べてみました。すると、法務省の  
サイトで、あるグラフを見つけた  
た。このグラフでは、全体の犯罪者  
の約三割 全体の事件数の約六割を  
再犯者が占めていました。このこと  
から、犯罪は「再犯」であるもの  
がとても多く、再犯者を減らすと事件  
数も減ると考えました。

では、なぜ再犯者は、犯罪を繰  
り返してしまうのかということが、  
ぼくの中で疑問になりました。そこ  
で、政府の広報オンラインのサイ  
トを調べてみると、再犯が増える原  
因がわかるグラフを見つけました。  
そのグラフでは、再犯を犯してし  
まった人の中で有職者が七・八パー  
セント、無職者が二十四・八パー  
セントを占めていました。また、再犯者  
の方が初犯者よりも、男女ともに住  
居不定者が多いことが分かりまし  
た。この結果から、再犯者が犯罪をくり  
返してしまうのは、職に就けずお金  
が無くなり、また、住むところもな  
く生活がままならなくなるからで  
はないかと考えました。

職に就けなくなるのは、出所時に  
高れいで体力的に働くことができ  
なくなっていたり、採用試験時に犯  
罪者というイメージがあって受か  
りにくくなっていたりするからで  
はないかなと思いました。  
確かに、ぼくが経営者だったら、  
パソコンを打つことなど作業が遅  
かったり、教えてもらったことが覚  
えづらい高れい者に比べ、作業が速  
かったり、教えてもらったことをし  
っかり覚えて動いてくれる若者を  
雇いたくなります。  
しかし、高れい者にもできること  
があります。例えば、野菜を上手に  
育てられたり、こども見守り隊で予  
どもたちの安全を守ったりなど、他  
にもできることはたくさんあると  
思います。  
大事なのは、人のできることを見  
極めて、一つ上のことにチャレンジ  
するようになってもらうことだと思  
いました。また、自分の実力を理解  
し、一つ上のことにチャレンジする  
ことだと思っています。

とにチャレンジしてもらえよう  
にしたいです。  
犯罪者という悪いイメージに関  
しては、もしぼくが経営者だつた  
ら、きちんと働いてくれるか信用で  
きない犯罪者よりも、しっかりと働  
いてくれそうな人を雇いたくなる  
と思います。しかし、犯罪者だから  
といって働くことができないわけ  
ではありません。大事なのは、あ  
の人だからできない、あの人はこん  
な人だからできない、あの人はこれ  
しかなかったと決めつけるのではな  
く、その人のことを見極め、理解す  
ることだと思っています。  
誰もが人をイメージで決めつけ  
たりせず、相手のことを理解し、見  
極めようとするので、どんな人  
も、のびのびとこの社会を生きられ  
るようになると思います。  
また、相手のことを理解しようとし  
る人が増えれば、自然と犯罪をする  
人も減ってくるのではないと思  
いました。誰もが胸を張って生きら  
れる、明るい社会を目指して、自分  
自身も行動していかないといいな  
いと思いました。

中学生の部

少年犯罪について

南中学校 三年 阿 食 香 奈

「僕は悪くない。僕をこんなふうにした親が悪いんだ。」

先日、テレビで少年達が少年院で暮らしているところを映した番組が流れていました。これは、その少年院で暮らしている一人の少年の言葉です。少年院とは、少年が犯罪を犯してしまったときに入られる、更生のための「教育の場」です。教育の場なので少年院では毎日、規則正しい生活をして、中学校で学ぶような授業を受けます。しかし、国語や数学などの一般的な授業に加え、少年院独自の特別な授業もあります。それは道徳のような授業です。人の気持ちを考え、自分たちの罪の重さを考え、人間としての豊かな気持ちを育くむことを目的としています。この授業の一部が番組で紹介されていました。それは、両親が仕事などで帰るのが遅

く、なかなか子供にかまっひまがない家庭のお話でした。その子供は薬物などを持っている大人に出会ってしまい、その大人のところへ入りびたるようになってしまった、どうすれば良かったのかということ

少年たちが考えて発表する授業でした。そのなかでみんなそれぞれに「その子供がもっと薬物に害があり危険だという知識をもっているれば良かった。」や、「薬物を持っている大人が良くないし、子供も軽々しくついていってはいけなかった。」などのような意見を挙げていました。しかし一人だけ他の少年たちと違った意見をもつ少年がいました。その少年は「薬物を使うまで追いつめたその子供の親が悪い。」という意見でした。この少年は初めの言葉を言った少年です。親から殺されるかと思うほどのひどい虐待をつけて

育ち、そついった生活の中で友達にも傷を負わせてしまい、少年院に入りました。その少年を担当している教官は、自分の罪を本当に自分が悪いと思うことができている部分があるから、これから時間をかけてゆっくりと罪の重さに向きあってもらおうと言っていました。私は、悲しい気持ちになりました。同じ日本で、私と同じような子供たちが少なからず、その少年と同じような経験をしてしまっているのだと思いました。

罪や感謝を述べていたり、本当に一人一人全く違った感じたことを書いていました。私は実際に犯罪を犯してしまった人が書いたものを初めて読み、こんなにも純粋で綺麗な感情をもっていることに驚きました。少年院というしっかりと管理されて、俗なものなど入ってこないクリーンな環境だからこそ色々なことについてちゃんと考えることが出来るのだと思いました。

また、このテレビ番組を見てから、私は担任の先生に『空が青いから白をえらんだのです』という本を貸していただき読んでみることにしました。この本は少年刑務所の更生教育である「社会性涵養プログラム」から生まれた作品を中心に編者の思いも書かれている詩集です。この本には、詩などほとんど書いたことがないからこそ生まれる心のままの言葉がたくさんありました。自分の好きな色やものごとをシンプルに、簡単に書いてあったり、犯罪を犯してしまったことの罪の重さ、普段言つことが出来なかった謝

私は今回初めて少年の犯罪についてしっかりと考えることが出来ました。初めて少年院についてのテレビを見て、本を読みました。その中で本当に彼らは犯罪をおこしたくっておこしたのではないのだなと思えました。周りの環境が悪かったり、偽物の幸せを求めてしまったり、そんなことがなければ犯罪を犯すことなどなく正しい人生を歩めたのだろうと思えました。これから周りの人たちの理解が進み、少年院の子供たちや、犯罪を犯してはいないがとても辛いと感じている子供たちにもきちんと一人一人に寄り添った生活が与えられるようになればいいと心から願います。



株式会社ドリームジャパン  
代表取締役  
長原和宣さん

第七十二回「社会を明るくする運動」メッセージ伝達式後、啓発講演会が開催されました。講師には、北海道帯広市出身で運送事業を手がける、株式会社ドリームジャパン社長の長原和宣氏をお招きし、お話を聞きました。

長原さんの講演を要約すると次のようになります。

長原さんは、学校を経営する裕福な家庭に生まれ、小学校まではいい

# 生きる喜び・稼ぐ喜び・胸を張る喜びを提供する

## 第72回「社会を明るくする運動」

### 啓発講演会 聴講記

保護司 神門 保雄

子で育った。しかし、中学校に進学する時、大好きだった野球を母親にやめさせられ、自分を見失い不良になった。高校進学後は、唯一頑張ったアイスホッケーもやめさせられて、不合理を感じてヤクザの世界に入った。その結果、高校三年生で退学となった。その後、更生を目的に自衛隊に入隊し、八年間勤め「自分は更生できた」と思い退職した。退職後は運送会社で働き始めたが、つらい勤務体制などから、今度は薬物中毒になり、逮捕され有罪判決を受けた。釈放後は、再起一転故郷の帯広に帰り、一枚二円のポスティングから仕事を始め「仕事をさせてもらえる喜び」を実感した。覚せい剤を

断ち切るため、覚せい剤を考える暇がないほど忙しい仕事、人と目と目を合わせることでできる仕事がしたいと思い、自ら経験したことのある宅配便の仕事を始めた。自分自身の再犯防止にもつながると思い、一生懸命働いた。会社が軌道に乗ると「更生意欲」「就労意欲」のある出所者を雇い、協力事業主として職親プロジェクト活動にも加わっている。犯罪者は、自分さえよければと考えている人が多い。自分もそういう生活をしてきた。だから、犯罪者の言い訳は経験上よく理解できる。しかし、言い訳、嘘まみれの生活はつらかった。現在は、自分が正直になることができ、人生が大変楽になった。また、相手から信頼されるようにもなった。人のために役立つ人生、周りの人から褒められる人生を送りたいと思っている。

覚せい剤は、何年たってもやめるのは難しい。理屈ではわかっているも、体が快感を覚えているからだ。一度手を出すとジェットコースターのように落ちていく。だから今でも自分は、覚せい剤を断ち切るために会社の経営に没頭している。覚せい剤で何度も死を覚悟した経験から、生かされている自分に気づき、両親、家族に感謝している。夢を持ち目標に向かって「逃げない・あきらめない・何とかなる」との前向きな長原さんの人生観に感銘を受けました。



# 今まで そして これから

出雲更生保護女性会長 嘉藤 馥美

出雲更生保護女性会は「非行や犯罪のない明るい社会」「次代を担う青少年の健やかな成長」を願って昭和三十七年三月に結成され、現在、旧出雲市内十六地区会員百二十五名で活動しています。今年度結成六十年を迎えました。去る五月十九日に出雲地区保護司会会長様はじめ関係機関・団体の方々のご臨席のもと、結成六十周年記念式典を挙行することができました。

この六十年を一つの通過点として、先輩の方々が築き上げてこられた活動を顧みるとともに現在の社会状況に照らしてなにかができるかを模索しながら、いろいろな課題に取り組んでいかなければならないと思っています。

## (1) 出雲更生保護女性会の活動

### ① 愛の募金活動

青少年の健全育成や非行防止を



願って毎年家庭や事業所等を訪問し、浄財の寄贈を受けています。(贈り先)

- ・ 県更生保護女性連盟を通して県内の関係保護施設に「愛の図書」「愛の募金」として贈呈
- ・ 旧出雲市内の保育園(所)・幼稚園・小学校・中学校・出雲養護

学校七十二校に「愛の図書」として贈呈

・ 青少年育成協議会

### ② 研修視察

会員の資質向上と相互の親睦を図るため、更生保護施設「しらぶじ」、島根あさひ社会復帰促進センター、松江地方裁判所などを視察。また近隣地区との交流会なども実施しています。昨年はコロナ感染防止に配慮しながら諏訪方宣様による講演と鳶巣地区の活動報告会を開催しました。

### ③ 各地区での活動

紙芝居(防犯・地域の安全・食育)『ミニちゃんのとことと』『マックんとプーちゃん 夢の町三丁目』『おばーの朝ごはん』を主活動としています。合わせて、手作りのホゴちゃん、サラちゃんの指人形を使ってお話をしています。

その他、各地区に応じた活動をしています。

### ◆ 校・園訪問

(登下校見守り・読み聞かせ等) ◆ 子供



会開催(雛祭り・月見等伝統行事・体験学習) ◆ 介護施設訪問(対面朗読・お茶会・清掃奉仕)

### ④ 機関紙「出雲更生保護女性会だより」を年二回発行

活動状況や研修会参加者による報告とその感想発表、新入会員や功労表彰者名など掲載して会員相互の繋がりを深めています。

## (2) 関係機関・他団体との連携における活動

保護司会・コミュニティセンター  
・ 青少年育成協議会・社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会・自治協会等団体の活動に参加

### 協力事業主会 研修会に参加して

保護司 尾添 隆

出雲地区協力事業主会は、刑を終えた人を雇用し、社会復帰に寄与するなど、更生保護に協力する組織です。

このたび、事業主会の研修会に保護司も参加しました。講師の松江公共職業安定所就職支援ナビゲーター土川泰さんから、出所者にとって就労は、「生活の基盤づくり」「社会とのつながり」「居場所」であるということを知りました。さらに、再犯防止にも繋がることを学びました。出所者の就労に、多くの事業所が理解をいただけたらと思います。



(研修風景)

### 一緒に 活動しませんか? BBS会員募集

BBS会長 春日 智徳

私たちBBS会員は、非行をした少年たちと一緒に芋ほり活動、軽スポーツや料理作りなど、グループで行う活動を通して、喜びや役割を感じてもらえる活動を行うボランティア団体です。

非行少年と聞いて、どんなイメージを持たれますか? 私たちの活動に参加してくれる少年たちは純粋で、でも生きづらさを抱えているそんな少年たちが多いです。はじめは、緊張もあり積極的に活動できなかつたことが、BBS会員からの優しい声かけにより徐々に緊張もほぐれて、終わるころには笑顔で活動してくれる少年たちが多くいます。そんな少年の立ち直りをサポートするボランティア活動と一緒に参加してみませんか?

#### 問い合わせ

出雲地区BBS会事務局  
0853-1227190

### 更生保護功労受彰者

(令和四年)

全国保護司連盟理事長表彰

三成 歳子 市場 隆子  
園山久美子 原 洋子

島根県知事感謝状

小村 恵子

中国地方更生保護委員会委員長表彰

濱村 芳文 石川 潤子  
山上 太全 福田 緑  
川上 雅文 石飛 博雄

中国地方保護司連盟会長表彰

糸賀 太道 加地 崇志  
西尾 弘道 榎野 博巳

松江保護観察所長表彰

稲田 昌史 高見 睦哉  
花原 良治 山田 信之

島根県保護司会連合会長表彰

今岡 輝夫 坂本 裕太  
原 正 吉岡 広明

### 編集後記

今年、中学・高校を卒業する子ども達が言っていました。クラスメートの顔をすっかり見たことがないと。彼らは三年間をマスクで過ごしました。でも、その中でも彼らなりに青春を謳歌し、友情を育んで来ています。友情を育み、人とのつながりを持つことは、犯罪や非行防止に

一番大切なこと。更に充実した人生を送るのにも必要な事だと思います。そろそろマスク無しの生活になります。改めて顔を見る友達との友情を深め、更に新しい出会いを大切に沢山の人となつたり、前途ある輝ける人生が送れる事を願っています。一人ひとりの幸せが世の中を明るくする第一歩になります。(山崎寧子)

### 保護司の異動

#### ◎退任

小村 恵子(平田)  
(令和四年十一月三十日付)

#### ◎新任

片寄 靖久 土江 志朗  
(以上出雲)

上村 博子(平田)  
昌子 春美(斐川)  
(令和四年十二月一日付)

#### ◎再任

打田美喜子 尾添 隆  
岸 篤彦 坂本美喜雄  
坂本 裕太 三島 洪道  
山上 太全 (以上出雲)  
角 美幸 榎野 博巳  
渡部 亨次 (以上平田)  
今岡 輝夫 村上 勉  
(以上斐川)  
藤井 哲真(河南)  
原 洋子(大社)  
(令和四年十二月一日付)

※この広報紙は、更生保護法人島根保護観察協会からの助成金を財源として発行しています。